法華宗信報

導～しるべ～

つながる信仰　興隆学林今昔　昭和・平成・令和編

ギモン？しつもん！そうなんだ‼法華宗　Vol.5

クイズ！編集長からの挑戦‼

Q：お題目はどんな感じでお唱えすればいいの？

ひろがる、みんなの信仰

179号
令和8年1月1日

合掌ってスゴい！

いまさら聞けない　まめ知識！合掌

発行：法華宗宗務院

つながる信仰

興隆学林

今昔

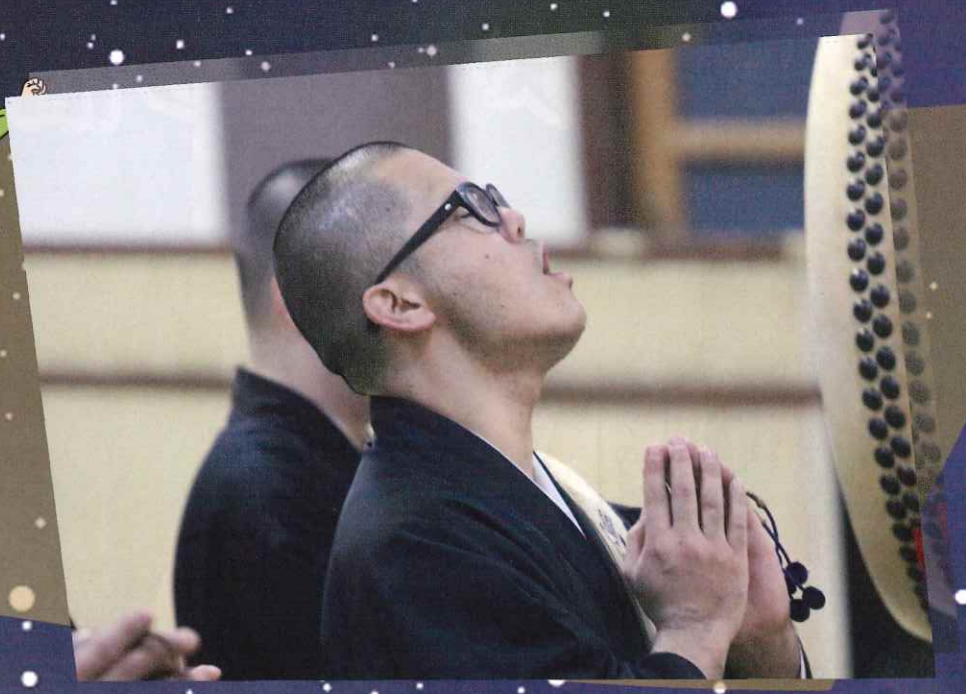
昭和・平成・令和編

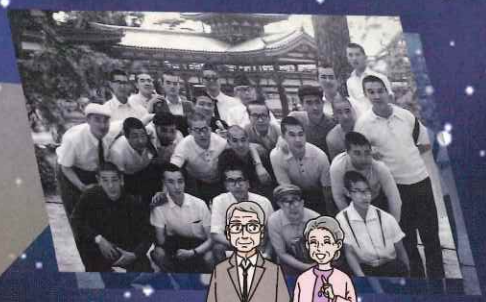
室町時代から続く学び舎

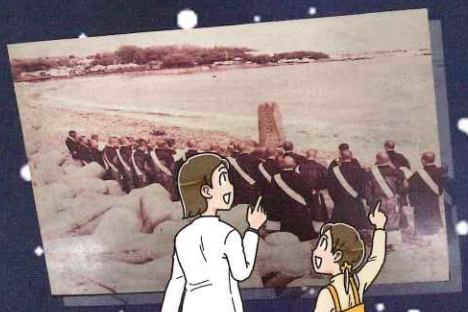
兵庫県尼崎市、大本山本興寺に隣接する地には私たち法華宗の僧侶養成機関である興隆学林専門学校がある。

学林の歴史を遡るのであれば、今より約五百七十年前の室町期に日隆聖人が創立した勧学院より始まる。その後に各地の本山を中心として創立された諸檀林（大沼田檀林・細草檀林・大亀谷檀林・光長寺学室）と共に僧侶育成の歴史を歩み、現在は全国から僧侶を志す学生が集まり給仕・修行・学問に励んでいる。

修行僧の「正しい教えを弘める」という強い意志は室町期より変わらず継承され、遙か昔の修行僧と同じ想いで繋がっている。







そして、更なる未来へと続いていく…

ギモン？
しつもん！

そうなんだ!!法華宗

Vol.5

Q お題目はどんな感じでお唱えすればいいの？

前号までで、南無妙法蓮華経を唱えることが仏になる唯一の道であることを説明しました。今号では、皆さんが具体的にどういった心構えでお題目をお唱えすべきか、『法華経』を基に例を示したいと思います。

『雨ニモマケズ』の詩で有名な宮沢賢治は、死の間際、父に一千部の『法華経』を知人に配ってほしいと遺言し、病気のために三十八歳でその生涯を終えました。

『雨ニモマケズ』には、物事に動じない強さ、他人を助ける優しさ、蔑まれても評価されなくても気にしないという、彼が目指した生き方が描かれているのですが、これは『法華経』に説かれる常不軽菩薩をモチーフにしたと言われています。

宮沢賢治（1896～1933）

詩人・童話作家。代表作に『注文の多い料理店』『銀河鉄道の夜』等があり、彼の作品は後世、多くの人々に影響を与えた。臨終の際にはお題目を唱えたと伝えられる。

『雨ニモマケズ』の詩より

「丈夫なからだを持ち
欲は無く 決して瞋らず
何時も静かに笑っている」

「東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を背負い」

「皆にデクノボーと呼ばれ
誉められもせず 苦にもされず
そういう者に 私はなりたい」

『法華経』に登場する常不軽菩薩がモチーフ

法華経では…

『法華経』常不軽菩薩品の二十四字

我深敬汝等 不敢軽慢 所以者何
汝等皆行菩薩道 当得作仏

私は貴方達を深く敬い、決して軽んじません。
何故なら貴方達は皆、菩薩の修行を行い、
必ず仏と成るからです。

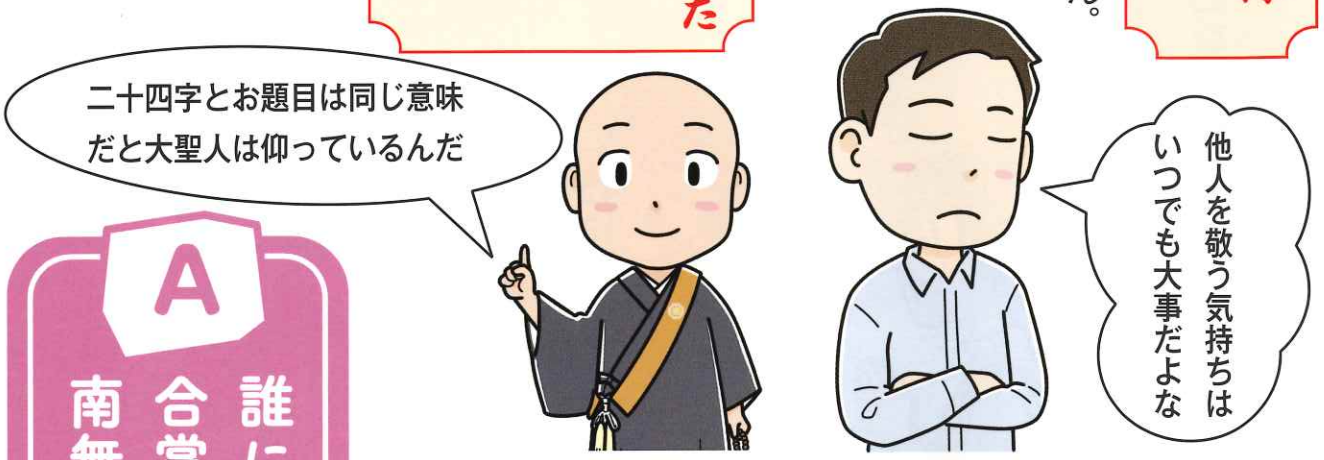
日蓮大聖人は…

日蓮大聖人『顕仏未来記』には

常不軽菩薩が人々に唱え聞かせた
二十四字の経文と日蓮が弘める
南無妙法蓮華経は語句の違いは
あっても心は全く同じなのです。
（現代語訳）

つまり

お題目を唱えることは
すべての人を
仏の子として敬う修行



『法華経』の説く常不軽菩薩はどのような方かと言いますと、経典を読まずただ礼拝のみをする菩薩でした。菩薩は会う人全てに「貴方は菩薩の修行を行って必ず仏に成ります」と告げるのですが、人々は馬鹿にされたと反発して、菩薩を棒で叩いたり石を投げつけて迫害したのです。その後、人々はその報いを受けつつも、最終的には常不軽菩薩の言葉通り、その場にいた全ての人々が仏に成れたのですが、実はその菩薩こそお釈迦様の前世だったのです。

宮沢賢治が詩に表した姿は、利他の精神を忘れずに強く生き切るという、日蓮大聖人にも通じるものです。

自分も他の人も仏様になるために、常不軽菩薩のように仏様だけでなく誰に対しても尊敬の気持ちを持って合掌と礼拝を行い、大聖人のように心を込めて南無妙法蓮華経をお唱えすることが大切なのです。

A

誰に対しても尊敬の気持ちで
合掌と礼拝を行い、心を込めて
南無妙法蓮華経をお唱えしましょう。

合掌（がっしょう）って、スゴい！

「合掌」とは？

両手の掌を胸の前で合わせて行う、礼拝方法のひとつです。

目的は相手を「尊敬する」「帰依する」「褒めたたえる」等です。

普段の挨拶等で合掌をすると、お互いの心が穏やかになります。

あなたも周りの人と合掌しあってみよう！

『法華経』に登場する常不軽菩薩様は、道行く人々に合掌して礼拝し「あなたを深く敬います！」と唱える修行をしていました。

「あなたを深く敬います！」なので、仏様や亡くなられた人だけでなく、生きている人に合掌しても大丈夫。

いまさら聞けない

まめ知識！

合掌（がっしょう）

今回で最終回のいまさら聞けない豆知識は
合掌です。
合掌と一言で言っても複数の種類がありますが、
法華宗で行う合掌は
「虚心合掌」（こしんがっしょう）という合掌です。

虚心合掌

虚心合掌は指(十指)を軽くのばして自然に合わせます。

腕は水平にして胸の前に合わせます。

法要やお勤め中において、
お経を唱えたりお焼香作法を行うとき以外は
常に合掌の姿勢を心掛けましょう。

**ここまで八回にわたり豆知識をご紹介してまいりました。
今後のお勤め作法での参考にしていただければ幸いです。**

※細かいお作法については菩提寺のお上人様にご指導をいただいて下さい。

※参考資料　『法華宗作法要典』法華宗宗務院

法華宗信報
No.179

発行人／平田義生

発行所／法華宗宗務院
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町
2-19-1
TEL 03-5614-3055

編集人／山上晶教

編集部／〒572-0088
大阪府寝屋川市木屋元町11-4
本信寺内
TEL 072-831-0640

イラスト／水野ゆうこ
印刷所／有本印刷株式会社

法華宗（本門流）
ホームページ

http://www.hokkeshu.or.jp

クイズ！ 編集長挑戦からの!!

法華宗信報第百七十一号から今号まで、我々大阪教区が担当しましたが、その間の法華宗信報の統一のテーマは何でしょう？

①信心の架け橋　②つなぐ　③導～しるべ～

ヒント 表紙を見てね

問題2

現在、私達法華宗の本山は日本にいくつあるでしょう？

①五つ　②一つ　③四つ　④百八つ

問題3

次号から法華宗信報編集部を担当するのはどこでしょう？

①アメリカ　②京都教区
③インド　④中国

編集長後記

みなさまいつも法華宗信報をお支えいただき誠にありがとうございます。

いよいよ今号をもって大阪教区が担当させていただくのも最後となりました。この3年間、ご寄稿いただいたご貫首猊下、発行人の宗務総長台下、宗務院の部長上人各位や担当者各位、教学指導をいただいた興隆学林の先生方、印刷業者の方々、イラストレーターの水野さん、そして何よりご愛読いただいた全国みなさまからのご指導、ご協力をいただきながら任期を全うできました。本当にありがとうございます。

振り返れば色々な企画を考えて掲載してきました。導（しるべ）をテーマに編集部一同「信仰で繋がる信報・読みやすい信報」をモットーとして歴史、教学、随筆、まめ知識、クイズなど色んなジャンルに挑戦し、そのうえで私自身たくさん勉強させてもらいました。今までの記事が少しでもみなさまにとって、ご自身の研鑽や信仰の継承へのきっかけになっていただけるとこの上ない幸せです。

次号からは京都教区へバトンタッチさせていただきますので、法華宗信報はずっとみなさまと繋がっていけますね。

最後に、企画、執筆、校正などずっと一緒に頑張ってくれた編集部のみなさま。本当にありがとうございました。本当にお疲れ様でした。打ち上げしましょう♪

これからも編集部一同、みなさまにとって幸せな日々を心より祈念しております。合掌

編集長拝

クイズの答え：問題1 ③　問題2 ③　問題3 ②